

私がこの塾に入ったのは中学校一年生の九月頃でした。そのころ風は冷たく、また私の心の勉強への情熱も冷え、消えかけておりました。英語のテストの点数が低く、また他のテストの点数も伸び悩んでおりましたので、嗚呼、ここが自分の限界だ。とこれらの悩みを自分の才能の少なさのせりにして、自堕落な生活をおくっておりました。今にしては鼻で笑えてしまうような悩みですが、昔の自分にとっては大きな悩みでした。少し話はそれましたが、そんな悩みを持って塾に入りました。私ですが、塾で待っていたことに驚かされました。なにせ皆私のことをほめてくれる、認めてくれるのです。点数が低いことをはりつめなくてよく、誰とも競わなくてよいのです。勉強をしなくてはいけません。頭が良くなければ人として馬鹿にされる学校とは大違いなのです。それからというものの心のほりつめが取れたのか、はたまた心の病みが消えたのか、テストでの自分の成長を実感できるようになったの

です。今でも私は鮮明に五十三点という点数
 をおぼえております。これは九月の中間から
 上がった自分の総合点でござります。この五
 十三という点数とこの塾への感謝を忘れないと
 思います。ありがとうございました。